

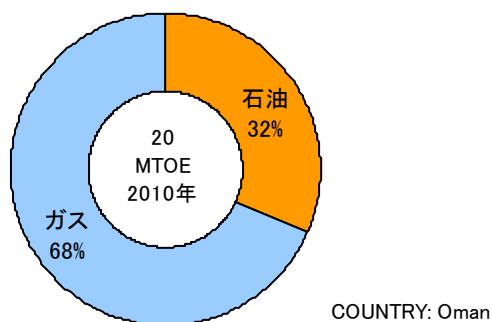
4-6 オマーン

1. サマリー

1. エネルギー事情 (2010年)

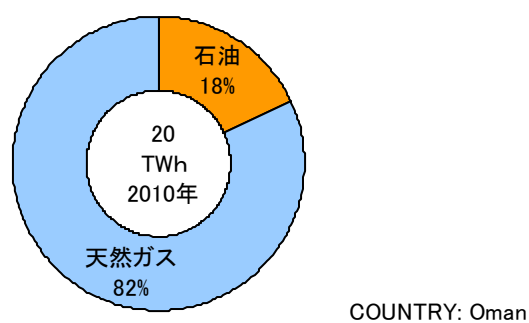
- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 20.00 百万 TOE (日本の 4.0%)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2010年) : 7.19TOE/人 (同 1.99 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 361% (純輸出国)
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 40.27 百万 CO₂ 換算 ton (同 3.5 %)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 14.47CO₂ 換算 ton (同 1.6 倍)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2011年末) : 原油 17.4年、天然ガス 25.5年

一次エネルギー供給構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

発電電力量構成 (2010)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- オマーンの主要なエネルギー政策担当機関は、石油・ガス省である。また、その管轄下に、エネルギー事業の遂行機関として PDO (Petroleum Development Oman) 等がある。

(2) 基本政策

- 2010年度は、石油・ガス収入が歳入の75%以上を占め、石油・ガスへの依存度が極めて高い。但し2009年度は、油価の低迷により例年より石油・ガスへの依存度が低下した。このような依存体質から脱却すべく、経済構造の多角化を推進することがオマーン政府の最優先課題となっている。特にガス産業及びガス関連産業の拡大が国内経済の多角化の重要な柱と位置づけられている。

(3) 最近の動向

- 2011年から第8次5ヵ年計画が開始した。計画では主に社会基盤や産業インフラに対して活発な財政支出を行うことが見込まれている。
- 2012年3月末、オマーンのMohammed Rumhy 石油大臣は原油生産量に関して、EORの進展により生産計画を91.5万b/dに設定したと公表した。一時、BP、Occidental、Shell等の新鉱区開発により95万b/dを記録したが、その後は減退傾向にあったため、EORプロジェクトの推進により3-4万b/dの増産が期待できるというもの。
- 2012年8月12日の現地時間午前1時頃、米国艦船USS Porterと日本の原油タンカーOtowasanがホルムズ(Hormuz)海峡で衝突した。米海軍は、衝突の原因は現在調査中であるが戦闘行為に関連したものではないとしている。今回の衝突によるけが人や油濁はなく、双方の船の航行にも問題はない。USS Porterはバハレーンに駐留している第5艦隊に合流する予定でHormuz海峡を航行していた。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 2011年における日本のオマーンからの原油輸入は476万klで、輸入量2億917万klの2.3%を占めている。LNGは395万トンが輸入され、同7,807万トンの5.1%を占めた。
- ジェトロが2012年6月初めに発表した貿易統計によれば、2011年の日本とオマーン間の貿易額は、6,323億円であった。オマーンから日本への輸出総額は、4,097億円で、うち鉱物性燃料(原油・LNG)の輸出額が4,068億円となったほか、食料品の輸出額は15億円、野菜類は4億円などとなっている。一方、日本からの輸入額は、2,226億円で、輸送機械が中心となっている。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	20.0	百万 TOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	7.19	TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.47	TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	361	% (純輸出国)
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	40.27	百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	14.47	CO ₂ 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	石炭	0 %
		石油	32.0 %
		ガス	68.0 %
		原子力	0 %
		水力	0 %
		再生可能エネルギー等	0 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	—	%
(9)	石油の輸入依存度	—	%
(10)	輸入原油の中東依存度	—	%
(11)	原油輸入先	第1位	—
		第2位	—
		第3位	—

(出所) (1)～(4) および (7)～(9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

(5)～(6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition

(10)～(11) は Blackwell, 「World Oil Trade」 2012